

# ミステリ読書案内

2024. 11. 24 発行元

第618号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 石田衣良「男女最終戦争IWGPXX」

9月に文藝春秋から石田衣良の『池袋ウエストゲートパーク』シリーズの20巻目『男女最終戦争』が出た。現在の若者を取り巻く情勢の厳しさをいろんな角度から取り上げてくれるシリーズである。

### 「闇バイト」まがいの…

第一話の『西池袋バッテリーズギ』はSNSを通じた「闇バイト」まがいの話。マコトがかつての高校時代の恩師・中野先生に頼まれたのは、経済的に追い込まれた現役の生徒三人が電動自転車のバッテリーを盗み、SNS上で依頼された人物に届けてお金をもらっているようだという事件。

なんとか犯罪の深みに嵌まる前に食い止めたい先生の願いをかなえようと動きだす。いつものようにタカシとGボーイズの協力を得ながら、買取り屋の元締めに打撃を与えようと工夫をこらす…。

### SNS上のフェイクニュース

第二話の『目白フェイクニュース・ライター』の話も昨今の切実な問題。SNS上の各種の書き込みが世の中を狂わせている。フェイクを書き込むことによって収益を得ているライターの元に脅迫状が無い

込んだ事件。

弁護士事務所を通しての依頼。マコトは気が進まないながらも、ハッカーのゼロワンに発信人の絞り込みを頼み、脅迫者の特定を進めていく。ネット上の争い。結局はこれも金儲けが元にあるのか…。

### 世の中の対立と分断

アメリカの大統領選挙ではないけれども、年々世の中の対立と分断が深まっているように感じる。ウクライナの戦争やパレスチナのガザ地区の現状も止めることができないのだろうか…。

第三話の『乙女ロード文豪倶楽部』はホストクラブまがいの文豪倶楽部に多額の借金を背負わせられた女性の話。

第四話の『男女最終戦争』は、「反女性」を売り物にするお笑いコンビのファンを名乗る人物が、フェミニストの活動家に硫酸をかけるという事件を引き起こした話。警察も犯人を追いかけるが、マコトも別ルー

### 《石田衣良・IWGPシリーズ》

1. 池袋ウエストゲートパーク
2. 少年計数機
3. 電子の星
4. 骨音
5. 反自殺クラブ
6. 非正規レジスタンス
7. 灰色のピーターパン
8. Gボーイズ冬戦争
9. ドラゴンティアーズ龍涙
10. PRIDEプライド
11. 憎悪のパレード
12. 裏切りのホワイトカード
13. 西一番街ブラックバイト
14. 七つの試練
15. 絶望スクール
16. 獣たちのコロシウム
17. 炎上フェニックス
18. ペットショップ無惨
19. 神の呪われた子
20. 男女最終戦争
21. 赤・黒 (外伝)
22. キング誕生 (外伝)

トから犯人特定を目指す。お笑いコンビと会って話を聞き、フェミニスト団体のリーダーとも話を進める。そんな中で、双方が力を合わせれば犯人をおびき出すことができるのではないかとの案が浮上する。マコトとタカシが考えた作戦は果たしてうまく行くのだろうか…。

## 羽生飛鳥「歌人探偵定家」

6月に東京創元社から出た本。『平家物語推理抄』シリーズとして出た『蝶として死す』『揺籃の都』の二冊につながる作品。前二作は平頼盛が主人公だったが、本書は頼盛の息子の保盛がワトソン役で、歌人として有名な藤原定家が探偵役を務める次世代の設定になっている。平家一門が壇ノ浦で亡くなった後、頼朝の恩人として唯一生き残りが許された池大納言一族の平保盛。目立たぬように京で暮らしている。その友人が時の摂政九条家に連なる藤原定家。保盛は父・頼盛から死体の検案技術を教えられており、定家は和歌の能力はもちろんだが推理力を備えている。

第一話の『くもがくれにしよはのつきかな』は、保盛が都の河原で女性のバラバラ死体に出会う事件。人々は鬼の仕業だと騒ぐが…。死体には紫式部の和歌が記された札が付けられていた。そこに出会わせた定家が名歌を悪事に利用されたことに憤慨して事情調べを開始する流れに。死体の様子から近くの屋敷で働いていたものと推測され…。第二話の『かこちがほなるわがなみだかな』は西行法師が話す過去の人間消失事件。鍵のかかる部屋の中から女性が消えてしまう。一連の流れを詳しく聞いていくと…。以下第五話まで続いていく。「本格謎解き」の基本パターンに則っているが、トリックそのものにはそれほどの捻りはない。定家を探偵役にして関係上、和歌の分析はしっかり成されている。第五話の最後の部分にどんでん返しのような場面が付け足されているが、これが必要だったのかどうかは疑問が残る。無しで終わっても問題ないような…。

第一話の『くもがくれにしよはのつきかな』は、保盛が都の河原で女性のバラバラ死体に出会う事件。人々は鬼の仕業だと騒ぐが…。死体には紫式部の和歌が記された札が付けられていた。そこに出会わせた定家が名歌を悪事に利用されたことに憤慨して事情調べを開始する流れに。死体の様子から近くの屋敷で働いていたものと推測され…。第二話の『かこちがほなるわがなみだかな』は西行法師が話す過去の人間消失事件。鍵のかかる部屋の中から女性が消えてしまう。一連の流れを詳しく聞いていくと…。以下第五話まで続いていく。「本格謎解き」の基本パターンに則っているが、トリックそのものにはそれほどの捻りはない。定家を探偵役にして関係上、和歌の分析はしっかり成されている。第五話の最後の部分にどんでん返しのような場面が付け足されているが、これが必要だったのかどうかは疑問が残る。無しで終わっても問題ないような…。